㉑磐椅神社（西峯）

延喜式内社磐椅神社は、『文徳実録』巻七によれば斉衡二年(855)正月二十八日に陸奥国磐椅神に従四位下を加えるとあって、古くから会津嶺の神として最も崇拝され、その格式も高く、往時は社殿も壮麗で、神興の御渡や流鏑馬などの神事もおこなわれた郡内一の大社であったといわれます。祭神は山上より遷座した大山祇神、埴山姫神ですが、これは民話に登場する弘法大師に調伏された足長・手長明神のことです。

神道に造詣の深かった会津藩主保科正之も寛文十二年(1672)の八月に参詣し、没後末社としてこの地に葬ることを遺言しています。

㉒西峯遺跡（西峯）

磐椅神社の南側、表参道を中心とした東西200ｍ×南北300ｍに広がる縄文時代中・後期の遺跡で、昭和四十四年からの４回にわたる発掘調査によって、複式炉を持つ竪穴住居跡や大木7a～９・勝坂・安行式の縄文土器、石鏃・石槍・石斧・石匙・石錐・石箆・石錘・磨石・敲石・石皿などの石器、土偶・土板・石偶などの貴重な考古資料が発見されています。（町指定史跡）

磐椅神社境内

㉓大神遺跡（磐根・大神新田）

旧石器時代最終末期・縄文時代前期の遺跡で、字大神地内の県道翁島停車場線の下側に広がる水田一帯がその範囲です。Ａ地点からは昭和四十二年に神子柴系の大きな石槍が発見され、Ｂ地点からは昭和六十三年に獲物を捕獲するためのＴピットと呼ばれる細長い落とし穴が多数検出されています。

㉔林口遺跡（川桁・林口）

大神遺跡と同様に旧石器時代の終末期・縄文時代前期の遺跡で、白津集落東側の畑地に立地しています。旧石器時代の石器には尖頭器・彫刻刀石器・スクレイパーがみられ、これらは倒木痕の堆積土中より一括して発見されていますが、恐らく当時は木の根元にデポ(埋納)として置かれていたものと考えられます。

林口遺跡出土の石器